

今こそ行きたい！

みんなが
待ってる

来てほしい

おすすめ

奥能登 応援旅！！

能登半島地震からおよそ1年半、奥能登豪雨災害から9カ月ほどが経ち、復興が遅れていた奥能登もやっと本格的に動き出しています。そんな復興途中で頑張っている奥能登の人々を励ます能登応援旅はいかがですか。能登の自然に癒やされ、能登グルメに感動する思い出旅の始まりです。

珠洲市

輪島市

能登町

穴水町

志賀町

七尾市

地震の影響で両サイドが崩れてしまった見附島。それでも堂々とした姿を見せています ※2024年12月5日撮影

輪島工房長屋

輪島塗の製作工程を知って
沈金や蒔絵で箸作りを体験

輪島塗の工房公開や製作体験を行っている施設です。2024年6月から二部営業を再開しており、下地職人さんの作業見学（作業は原則、金・土・日・月曜の10～16時）や、

わじまこうぼうながや



▲塗師による工程説明（要予約）



▲かつての職人長屋をイメージした建物

☎0768-23-0011
住 輪島市河井町
4-66-1 時9時～
17時 休水曜 料入
館無料 Pなし

MY箸づくり体験2000円（1膳）ができます。体験は、塗箸に模様を彫って金粉を入れる沈金や、漆で絵を描いた上に金色粉をまきつける蒔絵など、箸を彩る加飾技法の体験です。輪島ならではの工芸体験は、旅の思い出作りにぴったり。所要時間は個人差がありますが、20分～1時間。沈金で仕上げた箸は当日持ち帰り可能です。



▲ふすまに山岡鉄舟の書が残る仏殿の内部



▲大正2年（1913）に再建された大祖堂（法堂）。2024年12月に主要な16棟の伽羅が国重要文化財に指定されています。

はできませんが、仏殿や大祖堂など、堂内に入ることがができます。

☎0768-42-0005
住 輪島市門前町門
前1-18 時8時～
17時 休無休 料拝
観500円 P30台



▲圧倒的な存在感。高さ17.4m×間口20m×奥行14.4mの山門はほぼ健在

大本山總持寺祖院

だいほんざんそうじそいん

国の需要文化財に指定
莊嚴な七堂伽藍が並ぶ名刹

鎌倉時代末期に曹洞宗大本山として創建。明治時代に多くを焼失したため、本山は横浜へ移されましたが、その後、堂宇が再建され、曹洞宗の聖地として、厚い信仰を集めています。

2007年の能登半島地震で伽藍に甚大な被害があり、その修復をすべて終えた3年後、2024年の地震がありました。回廊は倒壊し、国の登録有形文化財17棟を含むすべての建物が再び被害を受けました。復旧は2034年ごろを目指しています。現在は拝観が可能です。回廊が倒壊したため回遊はできませんが、仏殿や大祖堂など、堂内に入ることがができます。

▼ランチ定食のメニューは週替わり



山あいから海辺へ

レストランとして再始動



▲重厚感のある大テーブルが印象的



▲地元の人や復興支援の人たちが集う

海辺の食堂 杣徑

うみべのしょくどう そまみち

在来種の野菜を生かした
滋味あふれるランチ

2023年7月にオープンし、半年と経たないうちに被災されてしまったオーベルジュ「茶寮 杣徑」が、2024年9月から「食堂」を始めました。茶寮は森の緑に包まれていましたが、食堂は鹿磯海岸のすぐそば。潮風を感じる開放的な立地です。建物は古民家を改修したもので、「茶寮 杣徑」と同様、建築家の中村好文氏が手がけ、オーナーである輪島の塗師・赤木明登氏の美意識が行き届いた心地よい空間となっています。

提供されるのは、料理人・北崎裕氏が腕を振るうランチ定食2000円。調味料は控えめで、能登の食材が持つ味わいをダイレクトに伝えていきます。また、ディナー2万円は完全予約制。ランチ休業日でも可能です。なお、「茶寮 杣徑」は修復で休業中。再開が待たれます。

☎090-4605-3737 住 輪島市
門前町鹿磯1-17 時11時30分
～14時30分LO、夜は要予約
休月・火・水曜 P10台

ロマンチックなスポットとして平成29年(2017)には「恋する灯台」に認定



能登半島の最先端 奥能登の絶景ポイント



▲能登の最先端で、海の向こうに思いを馳せる



▲「道の駅 狼煙」。駐車場から灯台へ徒歩約8分

緑剛埼灯台

ろっくつさきとうだい

珠洲市

すずし

歴史ある白亜の灯台 新たな灯りで復活

緑剛埼は、能登半島の最先端に位置し、海から昇る朝日と海に沈む夕日が見られる稀有な場所として、つとに有名です。また、干潮時には崖下に「千畳敷」といわれる平らな海食棚が現れて、壮麗な景色が広がります。その先端に立つのが緑剛埼灯台。明治16年(1883)に造られました。人力による石造りで、建造物としても歴史的価値が高い灯台です。平成10年(1998)には全国公募で「日本の灯台50選」に選ばれ、同21年(2009)には「近代化産業遺産」に認定されました。能登半島地震で被災し、建設当初から使われてきた貴重なレンズが破損。レンズは修復できませんでしたが、電球をLEDに置き換えて光量を確認し、2025年3月に復旧。海の道しるべとして蘇りました。

☎ 0768-82-7776 (珠洲市観光交流課) 住 珠洲市狼煙町イ部51 時 休 開 見学自由 P 110台 (道の駅 狼煙)

Cafe 銀次郎

田舎の実家を思わせる
レトロな古民家カフェ

祖父母が営んだ民宿を、愛知県から移住した姉妹がリニューアルし、昨年12月オープン。古民家の趣き漂う店内に囲炉裏風テーブルもあり、ほっこり落ち着けるカフェです。名物

かふえぎんじろう



▲自家製プリン350円



▲国道249号線沿いにあり、店内は靴を脱がないスタイル

☎ 0768-23-4591
住 輪島市深見町
59-9 時 7時~17時
休 火曜 P 4台



▲6種のスパイスとトマト、チキンを使った銀次郎カレー 800円



▲手づくり食パンでつくる、サンドウィッチ500円

らぼーるでゅぱん

ラポールデュパン

海を眺めて食べたくなる
香り豊かなハード系パン

潮風が吹き抜ける日本海に面したブルーランジェリー。2006年、大阪でパン作りを学んだ鹿島さんは故郷の輪島に戻り、当時はまだ地元で珍しかったハード系パンの店を開業しました。カリっとした皮とむっちりとした生地のバランスは絶妙なバケットは、この店を代表する逸品。そのおいしさが評判を呼び、今では



▲常にチャレンジを続け、行くたびに新しいパンに出合える



▲地震後、パンを待ち望む人の声に応え、翌2月から営業を再開

☎ 0768-23-4405
住 輪島市マリントウ
ン4-54 時 9時~18時
休 日・月曜 P 3台

遠くからわざわざパン好きが訪れる人気店になっています。ショーケースには、天然酵母で醸す香り豊かなハード系のほか、クロワッサンやブリオッシュ、ガレットやカヌレなどフランス系パンが華やかに並び、店頭で迷うのは必至。コーヒーやジュースのテイクアウトもでき、海を眺めて味わうのもおすすめです。



▲全長13m。記念撮影で人気のモニュメント「イカキング」

☎ 0768-74-1399
 住 能登町字越坂18番1 時 9時30分～17時(カフェは～16時LO)
 休 水曜 料 入館無料、遊覧船1500円
 P 65台

イカ尽くしを満喫！
 遊覧船で海中散歩も
 能登町小木の特産品であるイカと、「日本百景」にも選ばれた美しい

イカの駅つくモール

いかのえきつくもーる

能登町

の と ち ょ う

九十九湾の魅力に触れるならここへ。小木のイカ漁を紹介する展示コーナーに始まり、イカの加工品が揃うショップ、イカを使ったメニューが味わえるカフェが営業しています。カフェでは名物イカスミソフト420円やイカといしりのピザ630円がおすすめ。また、約40分かけて九十九湾を一周する遊覧船が1日に6便運航。デッキの下に降りてガラス越しに海中を見ることができ、海上と海中の両方から九十九湾を楽しめます。なお、レストランとマリンスポーツ体験は、日程は未定ながら、再開準備中です。



▲能登牛ロース肉を使う、能登丼 まるごと能登牛丼3000円



▲アゴダシのつゆで味わう、板盛り蕎麦1000円

☎ 0768-76-1552
 住 能登町当目28-1 時 11時～14時 休 月曜(祝日の場合は営業) P 10台

夢一輪館
 手打ちそばと能登の季節料理
 能登牛も味わえる古民家
 およそ30年前、当時は水道もなかった山あいに古民家を利用して開いた手打ちそば店。近くの湧水を使用し、挽きたて、打ちたて、切ったてのそばはたちまち評判となりました。炭火で焼いたトビウオで出

汁を取った自家製のアゴダシつゆなど、こだわりの詰まったそばは蕎麦通をうならせました。里山で採れた山菜や野菜とも相性もよく、能登の自然をたっぷり体感できます。地震では大きな被害を受けましたが、それでも4カ月後に再開。現在は、天板盛り蕎麦をはじめ、おろし蕎麦、あかもく蕎麦、まるごと能登牛丼など、以前と変わらぬそばが楽しめます。

にぎみこーひーかふえ



▲震災前と変わらない味と香り。手作りケーキは日替わりで3種ほど

一二味珈琲 Cafe

全国にファンをもつ珈琲と
 美味しさ定番のスイーツ

2001年、木ノ浦海岸の舟小屋で焙煎を始めたところ、苦みとコクのある味わいが評判になり、以来全国のファンに愛されている珈琲店。2015年公開の映画、「さいはてにてーやさしい香りと待ちながらー」のモデルとなったことでも知られています。

2008年には、珠洲市飯田に直営のイートインと豆販売のカフェを開き、珠洲の中心部で舟小屋のコー

ヒーが味わえるファン待望の店が誕生しました。能登半島地震では焙煎機が倒れたものの建物は鉄骨造りで無事。現在は営業日限定ですが、香り高いコーヒーとケーキでホッと息つくことができます。

☎ 0768-82-7023
 住 珠洲市飯田町7-30-1 時 10時～16時(金～日)、10時～15時(水・木)
 休 月・火曜(水・木曜はテイクアウトのみ可能) P 7台



▲木のぬくもりただよう店内でゆったりした時を



▲倉庫だった建物を改装、ガラス張りで店内は明るい

うどんのんち

うどんのんち

一晩じっくり寝かせる
 本場仕込みの麺作り

壁面いつばいに描かれたメニューのイラストが楽しい店内。自家製うどんの専門店です。香川県のうどん学校で学んだ店主による本格の讃岐うどん、つるつるもちもちの麺とこだわりの出汁が身上です。



▲冷やしぶっかけの鶏天うどん1200円。器は地元「二本松窯」の珠洲焼

シンプルに味わう釜あげうどんから、鶏天、かき揚げ、牛すじ、きのこ天などボリュームのある具材入りまで種類豊富。一番人気は鶏天うどん。肉質の柔らかな若鶏の鶏天、とりとした半熟卵が食欲をそそります。がっつりと食べ応えのある野菜のかき揚げうどんもおすすめ。いずれも「温かいうどん」か「冷やしぶっかけ」が選べます。



▲大きな「乃」の字の看板が目印

☎ 0768-82-6105
 住 珠洲市野々江町シ部20-1 時 11時～14時(麺がなくなり次第終了) 休 月・土・日曜、祝日 P 6台

穴水町

あなみずまち

ほらまちやぐら

ボラ待ちやぐら

穴水町のシンボル

ユニークな海のやぐら

江戸時代から行われていた穴水湾の伝統漁法「ボラ待ち網漁」のやぐらです。これは、やぐらからボラの群れが海底に張ったフクロ網に入るのを見張り、入ったところで網を手繰るという漁法。日がな一日のんびりボラを待つようなイメージですが、音に敏感なボラに気づかれぬよ



▲丸太を組み上げて高さ7～8mに



▲中居湾ふれあいパークから間近に見える

☎0768-52-3790
(穴水町観光交流課) 住 穴水町根木
地内、比良地内 時
休 料 見学自由 P
20台(根木ポケット
パーク)、20台
(中居湾ふれあい
パーク)

う静かに見張りながら、光が反射する海面を通して魚影を見つけね

ばならない根気のいる仕事でした。漁は行われていませんが、やぐらは今もそびえ立ち、町の歴史を伝えています。根木ポケットパークと中居湾ふれあいパーク(ともに国道294号線沿い)から見るができます。

志賀町

しかまち

せかいいちながいべんち

世界一長いベンチ

伝統の和太鼓リレーでギネス認定に返り咲く

増穂浦は日本小貝3名所の1つ。サクラ貝、ニシキ貝、マクラ貝など「三十六歌仙貝」が流れ着きます。抜群の透明度と美しい夕日の海辺としても知られています。

海岸沿いに設置されているのが、かつてギネスブックに認定された全長約460mの「世界一長いベンチ」です。

昨年、「リレー形式で和太鼓を叩

▲ベンチ背後には富来の子らの手形タイルが並ぶ

▼ベンチの傍には平和を願う石碑



☎0767-42-0355
(志賀町観光協会) 住 志賀町富来領家
町 時 休 料 見学自由 P
70台

お菓子工房 Hanon

能登へのエールを贈る、笑顔を開く焼菓子

焼菓子は、動物やハート型クッキー、素材を生かしたシンプルクッキー、フランス菓子など多彩。店主の滝川若葉さんは神戸や富山、フランスで修業したパティシエールです。

おかしこうぼうのはのん



▲滝川さんの優しさを映じた焼菓子の数々



▲能登応援クッキーは4種

☎0768-23-4998 住 穴
水町大町二の7 時 11時
～18時 休 水・日曜 P 電
話で要問合せ



▲同店は令和2年、いしかわ商工会ベスト店最優秀賞に

素材には輪島の天然塩、珠洲の大浜大豆、穴水のカボチャなど地元良質素材を多用し、また、無添加に努めています。

注文販売のホールケーキも人気です。というのも、地元では同店の開業以前、ホールケーキを買うために輪島や金沢へ出向いていたから。「お菓子と過ごす喜びをどうぞ」というメッセージがどの品からも伝わってきます。

道の駅とぎ海街道

富来のグルメと特産品で「ようこそー!」

地産地消とオリジナリティを看板とする食事処と品揃え豊富なみやげ処が旅客を迎えます。

食事処のイチオシは「甘えびかきあげバーガー」。焼いたパンズの間クリームチーズ、甘えびのかき揚げ、グリーンリーフを挟み、醤油ベースの

みちのえきとぎうみかいどう



▲おみやげ処には富来八朔祭礼のキリコを展示



▲世界一長いベンチの目と鼻の先



▲甘えびかきあげバーガー 600円

☎0767-42-0975 住 志賀
町富来領家町甲3-5 時 9時
～17時、レストランは11
時～14時 休 無休(12～2
月は木曜) P 45台

甘辛タレで仕上げています。地元漁港仕入れの「海鮮丼」、志賀町産能登豚バラ肉を玉ねぎとともに甘辛く味付けした「能登豚のスタミナ丼」も好評。

みやげ処には、増穂浦のサクラ貝で作った工芸品、地元の海鮮物や農産物、銘菓、醤油など、志賀町の名物が揃っています。

幸寿し本店

漁港直送のネタが生きた丹精を込めたにぎり

七尾湾には県内有数の魚介が揚がる港があり、そこから毎朝極上品が届けられます。水揚げされたばかりの魚は歯ごたえがあり、噛むほどに甘みが増し、通を唸らせま

こうずしほんてん



▲おまかせ寿し(10貫)4400円。人気店なので予約がおすすめ

▶カウンター席とテーブル席がある店内

☎0767-53-1274
住 七尾市相生町30-1
時 11時30分~12時50分、13時~14時30分、17~20時(ネタがなくなり次第終了) 休 月曜 入 10台



す。そればかりではなく、七尾の山間部で育つコシヒカリのシャリとも相性がよく、小ぶりやや丸いカタチの握りが口中にすっとおさまります。カウンターの中で握るのは2代目を継いだ兄弟。丁寧に仕込みをしたネタを、煮切り醤油をひいたり、能登産の塩や柚をふるなど、ひとつひとつバランスがとれた寿しに仕上げます。JR七尾駅から徒歩約7分と利便性もよく、金沢から日帰りも可能です。



▲TENKU野菜キーマカレー 1300円、TENKUプリン(この時期限定580円)



▲刻々と移ろう空景色は見飽きることがない

☎0767-53-7858
住 七尾市矢田町21号鉄砲山3-6
時 11時~16時30分 休 火曜(祝日の場合は営業)、積雪時 入 15台

「天空」を彷彿させる七尾一望の特等席
七尾城跡を頂上に置く城山の中腹に位置し、その眺望は訪れた人を瞬時に魅了します。七尾市街、七尾湾南湾から西湾、能登島…「cafe J.Road」の名で親しまれてきた同店は令和6年、30周年を機に、「TENKU」ブランドを立上げ、新商品を開発。

筆頭は、能登産玉子など素材と口あたりを吟味したTENKUプリンです。TENKU野菜キーマカレーは、肉の食感とうま味を生かしたスパイシーなひと品。チャレンジをいとわないスタッフたちから元気をもらえる素敵な隠れ家です。

TENKU cafe J.Road

てんくう かふえ じえい りーど

▼能登の海を解説した展示室。伝馬船や漁具を実物展示



世界農業遺産に認定された能登の自然と伝統文化

四季折々の七尾を映す大型画面のシアターも

能登地方の歴史や文化、自然を総覧できる施設です。化石や遺跡などから見えてくる能登の成り立ちや昔人の暮らし、能登の拠点である七尾の政治や経済などの歴史、祭りや年中行事といった民俗を紹介しています。実物を見たリ、触ったりできる体験型の展示が特徴です。おすすめは、七尾の風景や祭りの映像が楽しめる里山里海シアター。3m×5mの2つのL字型スクリーンは迫力があり、間近で見ることができ、ので、景色に入り込んだような没入感があります。所要時間は10分ほど。なお、同館と隣接する国史跡「能登国分寺跡」では、復元整備された南門などの遺構を見学できます。広々とした公園を散策した後は、芝生広場を眺めながら、ひと息つけるカフェもあり。



▲エントランスホール。フロアには能登半島の巨大な絵地図が

☎0767-57-5100
住 七尾市国分町イ部1(能登歴史公園内) 時 9時~17時 休 火曜(祝日の場合は開館) 入 館 無 料 入 107台

のと里山里海ミュージアム

のとさとやまさとうみみゅーじあむ

七尾市

ななおし